

## 内分泌核医学の現状と動向

中 條 政 敬\*

\* 鹿児島大学医学部放射線科

要旨 甲状腺，副甲状腺，副腎皮質，髄質の核医学およびソマトスタチンレセプターイメージングについて現状と動向を概説した．甲状腺に関しては  $^{123}\text{I}$  や  $^{99\text{m}}\text{Tc}$  による甲状腺イメージング， $^{201}\text{Tl}$ ， $^{67}\text{Ga}$ ， $^{131}\text{I}$  ( $^{123}\text{I}$ )-MIBG による腫瘍イメージングと  $^{131}\text{I}$  によるバセドウ氏病や術後甲状腺癌転移巣の治療，副甲状腺に関しては  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI や  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -テトロフォスミンの有用性，副腎に関しては  $^{131}\text{I}$ -アドステロールと放射性 MIBG イメージングの有用性と問題点， $^{131}\text{I}$ -MIBG による神経堤腫瘍の治療成績，ソマトスタチンレセプターイメージングに関しては消化器系ホルモン産生腫瘍やバセドウ氏病，甲状腺腫瘍，神経堤腫瘍における有用性に触れた．本邦においても  $^{131}\text{I}$ -MIBG による褐色細胞腫や神経芽細胞腫などの悪性神経堤腫瘍の治療， $^{111}\text{In}$ -pentetreotide によるソマトスタチンレセプターイメージングが一刻も早く，実施可能となることが望まれる．

(核医学 36: 1-5, 1999)